

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際交流センター
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-4	成果 C
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	・学習成果を測定する評価指標に基づいた評価制度は整っていない。現状では、留年率、卒業生アンケート、卒業生の進路調査票の集計結果の数値、就職決定率などから測定するしかない。
-------	---

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
-------	--

【改善すべき事項】

4-4-1	日本語教育に関する学習成果を測定するための評価指標がない。国際交流センターから実施できる独自かつ客観的な評価指標や評価方法を検討する。具体的には、日本語能力試験やビジネス日本語能力テスト（BJT）の受験を推奨し、上級レベルの合格を指評とする。
-------	---

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

留年率、卒業生アンケート集計結果、卒業生進路調査票、就職決定率、学則第 23 条、学位規則、読売新聞「大学の實力」 《指標データ》
--

データ集（表 1 1）学生の国別国際交流

（表 1 2）海外への派遣学生数

（表 1 3）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表 1 4）教員・研究者の国際学術研究交流

（表 1 5）国際交流協定締結機関数・締結国数

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-4-1 日本語教育に関する学習成果を測定するための評価指標を導入	日本語教育に関する学習成果を測定するための評価指標が導入されている。	→				
14 年度 目標	4-4-1 日本語教育に関する学習成果を測定するための評価指標導入を検討	左記の検討過程が国際交流センター管理委員会に報告されている。	→	C			